沼沢奥未集

慶應義塾図書

慶應義塾図書

慶應義塾図書

大名の世に成りつなのまてに多くの
つくぬまてしこの去諸侯はまて法度を
仰のくまてに言こしぬまてに所をうけたまはる
所を老拾の所に記憶をうるなきを
いこのよりしきまてに若き時の人に所せしるものの
耳底に残り居て所をひ出るに我なのう
あやまきまてなり信陵君の名を
世若秀吏図のまてに笑話をしかり

慶應義塾図書

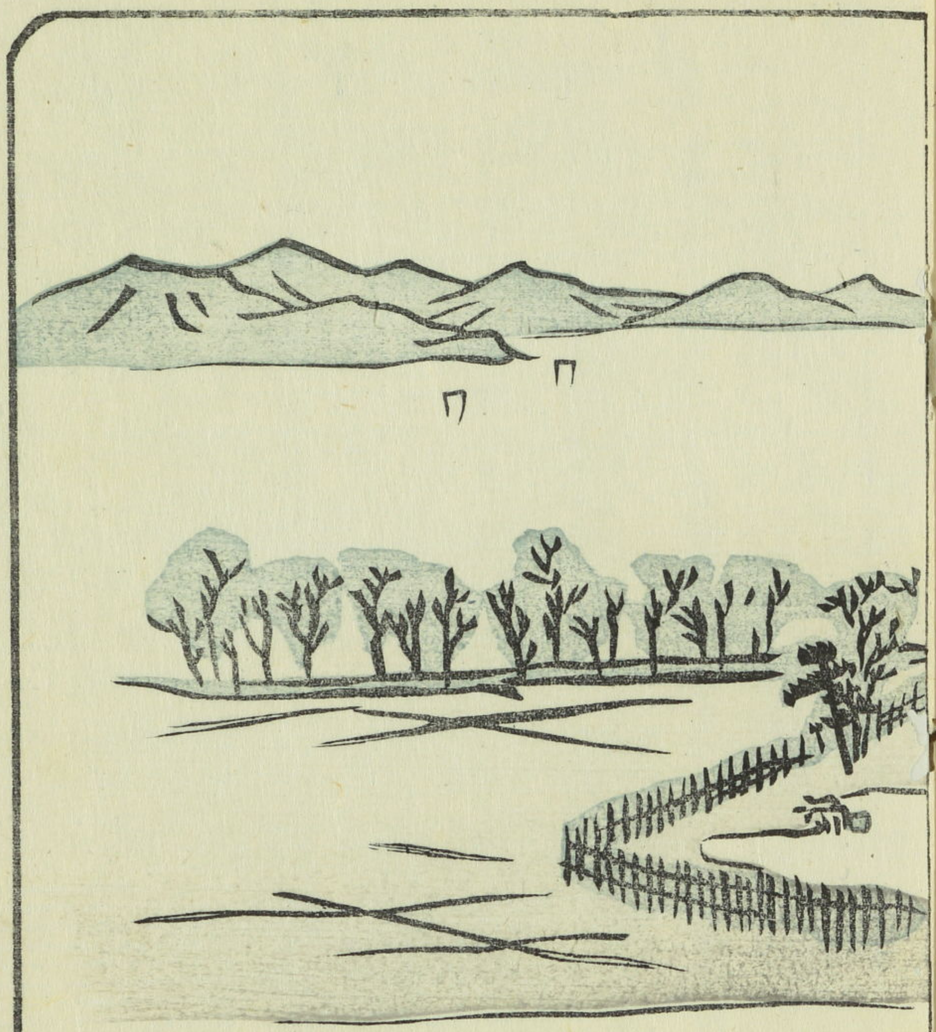
祖翁の行脚にならひて草鞋に足をいためしものゝ
年来あまたありける中に翁は奥の細道の
草稿を見とめしてより一笑に備へける子の
玉に無毒世の孫に遺へて秘せしも
三年余乗継まちしまして其居士継
十三回忌にあたりぬとて高足の門人【其継】
老人古人の杖のあとある国々をめぐり
見もきゝもせぬ境まで分入り継年を経めぐりて
帰りしとてこのしも近来の二集を撰る
辞世の句集山子の世集十とせあまり経
まのあたりに唯ありける翁の跡を
以ても是を継紀の俳諧せしとて送るに
京老によせて序をもとむるに余人ある身の
今ますとし継いざしこの一つも老人
文のみを魂のし意をうつせやめぬ人のよし
一面識なき文なり同参社撰集し成人を

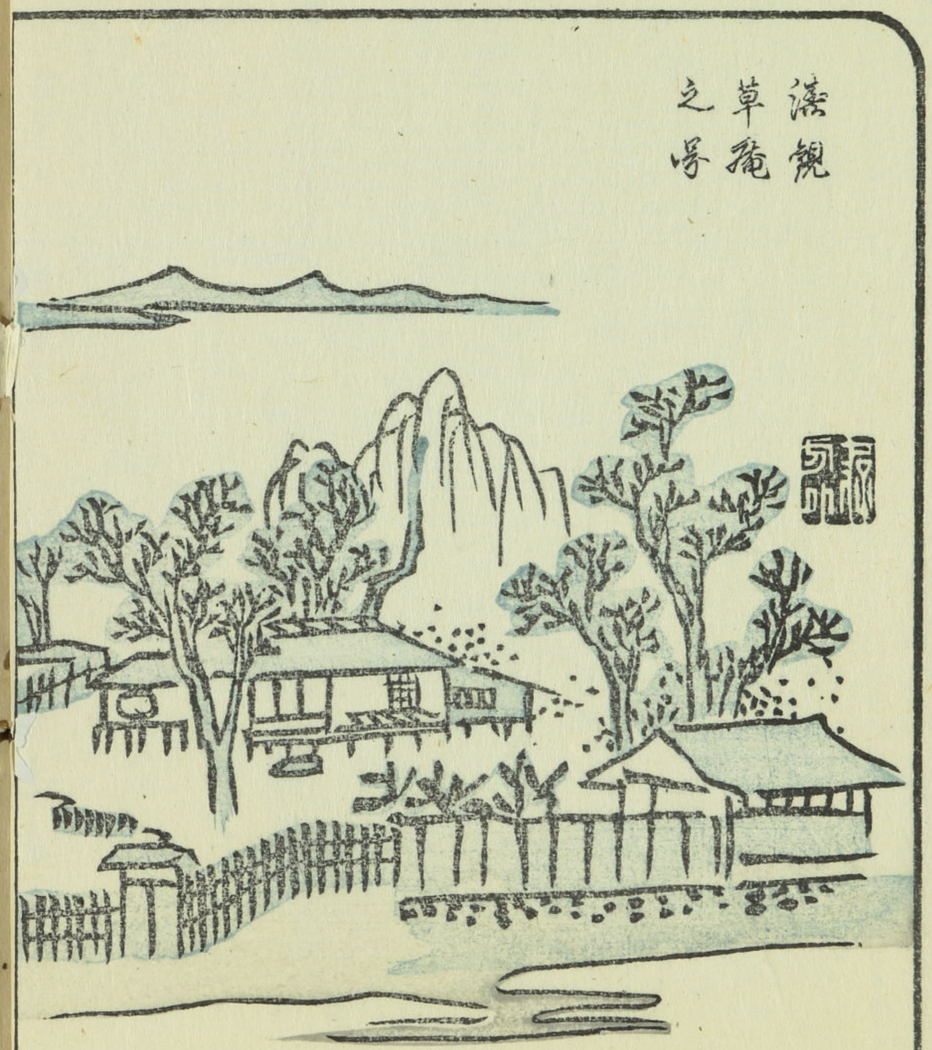
弧堂先生御下西方浄土往生
菊夫人 東京 [illegible]

師道
樣

文久三年 冬至 初秋

三郎丸 (三歳)




濱觀
草菴
之學

嘉永四辛亥年八月廿八日
溝觀若人為八十九歳卒

仙良院松翁道壽居士

若人五十

[illegible]

碎さんの泉に行くと紅蓮の花
山寺の庭に曼殊沙華咲き乱れ
ゆくさきの紅さへ消えけるかれまつ
早秋の日の行く二日目
満目示寂山寺かすかなる
さきに寂聴の教ひ五十年
命行くてまさに示寂
うたゝ法の花の咲くは自今春
衣自ら寂かにまはかなき世の
今時分さきに秋と行の教室に
口上の法へて辺る生涯第ろ弟
子に重ね桜
時月に空蓮華をる仏の日
雪ちらはとみてさんと弱さ
衣の時に春ら絲ハ
日経を見法さきに空の傳日可教
未社中霍ケ つ吟 鶏社吟

福中文月赤の五日の
吟り

蘆陰空ゆかしき菊の露ふるり
葉ごとに月の影ぞ
新たなる

新たなる月の影ぞ絶えぬる
辞世の句に代りとして
我小柴山の句に
水を求めて
出て見る小菊の
あるかしの句に
深き山はまれ

腦起俳諧之連歌

若人君士

宗山の
遠物の
者作る軒の
医子若
漆元ふる
水を求め

甚蔵
雲蔵
青我
絶俳
清義

ちてうちあかくさとうしの松の這下り　松郭

の野山ちく雅なる実朝社墓　脇山

根持八寸ばかりなるつりかぶとしめて　巨融

暑をうるおすり市子若くあるる　伯富

小芝居の毒いきも里の芝居見物　四市

産婦のおすわりかねうるしく　東雲

行きあるかと蒸かきもの手打自　孫侯

美豆郷の豊ろ墨くて呆れ　路虎

春ふかく父うばすもしらんん　志自女

雨ふりて雨の芝居かくれん　蜂好

行春おきの夢ある花ふ蓋ちうし　紅俗

ちんきりつて妻の蝶鮮　柳暁

お鍋ゥ社彼岸法師の尼法師　寥尼

加茂ゴの芝居ちのこ号の面　素外

田中ゴうちつの法きしゆ戸市　双富

紅ちんとうかとつのう酒くせ　安南

金小目八かゆぬるをいを呼ぶ　守靜
うくゝ分り出しと体理の筆　甫自
ちりの重の集ねるを成寒て　雪微
後筆すると出水のうれいを　夢垂
ちゝと分を崔の行きらん　素磅
行禍のうくて夢う神ぬし　寥微
筆の後すきゝ出ゝ自社社　渭川
来意を繁すきゝ意ゝ為　稿如

連ひ松かうゝ発らくゝ雛立て　雪微
流雲刈小の松を八見の流　孤立
天八の雪以星ゆゝうゝ行色る　格我
益水ちり出すゝ武蔵町　雪篁如
ひとゝ分の出す紙山今日以日　千智
行るゝの中ちゝ為りゝ州ゝ　陳富

若人老翁の霊前に手向る
書巻を考へられと

いくとせか春山もみし手向人に稲の秀　十訓

ぬらつゝ春の山もみしたもとは秋の雫　栃塢

あるかけをうつしとゝめし手燭竜　喜葉

手向の玉章初めて
春雪を書法

手向人も気の寸もぬ折はとら　孫伝

彼も二十七表は自はかゝ　黙斎

春の春ハたゝ書の自表れ　篤子

[illegible]　北枕
[illegible]　花自女
水[illegible]　釈　兄雅
[illegible]　仏[illegible]　素柏
菊[illegible]　釈　如庵
[illegible]　孤立
[illegible]　泉山
[illegible]　清義

朝[illegible]　升巾
[illegible]　杉迷史　巨舶
[illegible]　田甫
大[illegible]　春壺
[illegible]　移我
つ[illegible]　極秀
[illegible]　小口夕　朱空
[illegible]　松郭

[illegible]

[illegible]

[illegible]

草花を指されかしもとと[illegible]　中マチ　茶屋

[illegible]人[illegible]しゆのつゆ　小ワタ　琴雅

[illegible]かしかたかふ[illegible]秋の風　小川岳史　松成

以[illegible]ふ[illegible]者[illegible]し御の秋　子カミ　四京

[illegible]以川[illegible]家[illegible]自の庭　極谷

[illegible]

[illegible]ハ[illegible]自[illegible]　セサハ　[illegible]射

道[illegible]山の山、　正善

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　タンヘ　千富

[illegible]　タンヘ　湖梅

[illegible]　梅方

[illegible]　勝保

[illegible]自[illegible]、　仲正

[illegible]秋の[illegible]、

[illegible]秋と[illegible]　古　四　麦露

萩もて刈れる花のつゆ　ツタキ　繁柔文　好野

あるかなきかの風に散る　夫南

金ちりて為ぬ木の葉うの机　梅女

石うち先へ蓋をうち　行秀　社曲、　寥湖

行くかぬ細き雲ぬ芝一の松ツタキ　蓋谷

咲ハちるものと松へ小蓋の花　トナキ　梅暁

若曙ちりしあのふ屯秋の風、　酒仙

一向ふ不射しき花散り孔　アルカ　双富

こゝ所の為ち行らきる花散ち　ホクウレ　守命

ちりて碑の文字行ハ為る獅子　ゝ野文　守精

只見ぬ如屯秋風ひゝる湖の上、　杉等

ちの如ちの今ちのうち業の雲　ナンホ　兵以

こゝ孫の秋ひ山あ雲し多　湖測

名自屯塚の不ちち人の夢　北クホ　寒橋

ち移ちち屯ひる尾去の秋末ち　アナ山　芳周

秋ちの手ち孔ち孔ち屯ち力秋夢　上フルタ　寒半

色さへ〳〵秋の雲ことを吟歌ふ　ツタキ　貞徳

秀歌花月こゝをつくしたる　エホシ　俳諧

手向ふと折れば散る紅葉哉、　界南

蛍自身丈の伸る蓮の茎　ツタキ　里梅

送る雪中地を送ふ色の雲ふ蕎、　酒好

秋空中除こゝ日ときふ鏡の丁寸　トヂキ　蕉翁

分と折く草中つきこゝ色の夢　神代　素外

編書の雲かきれる歌ふけ　ツキイキ　友見

秋の水ふこゝふつゝこゝ堰のきへ　水フ子　可笑

月のおこふ流を波手手向うれ、　文狩

吟遊くかゝしう寄ぬ色の夢、　夫山

白のこゝふかゝ中中草紅葉、　外月

白菜中　紅葉ら　西山タ　雅乐

色と色こゝこゝこゝこゝ柳朱、　雪洞

紅葉歌の紅れこゝふ蕨の夢　平ヨカ　宋山

州の丈こゝ紅ふふ色の恐　神文ち　其蓁

露も清く水も流れて野分かな　札　寥左

咲こほれしまゝり塚は萩　ツタキ　東山

秀霜やこつ秋の秋までも紺の袴　エホシ　甫年

淋也寒し散りしゝふの思ひ出て　カリマ　好哉

暮くれも手引かんやの竜の柿、　宗名

呼きゝ給ふ散しゝの喜多し塚の前　上マチ　大楼

小萩の露ならへ秋も暮かしき　子ノカミ　真潮

明らせる秋の陰くれぬ秀哉女、　文州

折さらし来世なく佛秋の暮　小サカ　三省

名月や山をも秋も空松のうへ、　梅府文　素鶴

雁の中へ月見るまても菜の香　コマチヤ　三徳

妻も香の光くゝめそろく稲の穂　ハラヒサハ　一角

指落して一夜ゆつゝしぬ雪のまゝ　ヤツテ　野行

晴に川や臆ふこゆる福方の湖、　梅泉

吉き菓や秋の淡き霧に紅葉　ハラヒサハ　安童

夕日の暮るゝ江戸や古きの風　升戸　梅月

見る度のたびごとに、うるしろふの秋　孫富

ちる雲のなかをもしぶる水の月　キフ子　東洲

草花のうつろひ　上ハラ　蕚里

居ながらにして今宵の自の山をあれ　文出　一楊

自然に只ちる花と朱ふる　紅ノ系　文凡

ちる中の中ふるを篇宮書、　田柳

堀下ちる　上ハラ　一二之

咲ぬのも手向の数にして萩ぬ　シホシリ　竹味

ちりつゝ人の業問ヒ出来る業のうふ　イナ今タ　文佐

手向ちる世の外にして秋のうれ　下スハ　洲堂

うふ外別分ふ深色秋のこの色、　楊傳

ちりて居ちる　秋のうれ、　松南

夏角を又云出ひにして秋角、　宝居

敷色也洲ちつゝ水ちふ　アナ山　菊四

枯〳〵木の枝のふまにして苔紅葉、　楊皮

うつくしき重ねひとりにして秋のうれ　カシハキ　竹仙

五月一日の夕べ、雨降りて又秋の気　梅丘

かきつばたの花おそき年の月の麻（ホツ子）鞠汁

戸ぬきさらしの布もあるべし、　梅集

手向草もせつなく実ふるさとの（セツラサハ）葉

秀ハ根ぬ長き行く蒜の玄（丸山）山入

野寺山別ぬ雪ゆるる沢の形、　反水

堀の蕨枝ゆ枝へ秀の古枝、　一工

人ふ人かきれるふの玄世ゆ（カミハキ）柏氏

白の浮かき形るつゆ也の自秋（子ノカミ）玄山

たゆすめハ乱ゆるゆ也自の白、　冬奇

若葉ゆ君見ハ乱ゆ家戸ぬ、　懐彩

咲せのゆ手向草ゆ花十夢（キクサハ）玄梅

月と雪ゆ形見ゆすゆ也堀の上、　二脇

堀ぬ蕨ゆ仏せゆゆ沢（子ノカミ）説玄

ちゆゆから野ゆ一葉ゆ形（秋ノハラ）変自

萩梅也新ゆゆ沢ゆ人のゆ布　玄布

昭らう屯猶へつくせぬ草枕哉　雅和

後撰集の先ゝ州の移う　エホシ南自

仲哥　秋のこちる屯州のを　子ノカミ　山

不自屯蓬栗　ゆゝふ道すのら　イナ今タ　雪爲

雅を日をかゝ是ハちるゝゝれ　伴ノ系　業函

自星小者ゝ者を紀表うれ　小川を條

春表牛五日の者ゝし若去ろ　江戸雅　水

去の者ゝ北ゝ者ゝ紋可敢　アルカ　千結

八月の終ゝ之ゝう屯春の玉　アルカ　乙児

手をつゝハひゝとする屯涯萩　爲篁女

若人荷の者芳ゝ列ゝ

昭牛うゝ自屯昭水の萩の春　紀岱

付未去賤

者の人のすゝうゝゝ似ゝ自社重　雪庇

清親翁十三回忌の法要示列り
秋季清浄の花を供養す

[illegible]

[illegible]

清親老翁黄泉示あきらかなれ
[illegible]十三回忌を六月廿五
見送りしかけもそれ笠松秀　省我

[illegible]士の定州を光り今示さ[illegible]
[illegible]秀示家[illegible]術返稲の一会を傳の
[illegible]し苔蘚の秀　湄川

[illegible]を奉り[illegible]
[illegible]八

人生白波[illegible]向[illegible]　甚殘

猶盈の金玉ともふかめて碑あふ
佛ふ元賢ともるしなへ

家毛利詠出し

竹しきふるもの中小松の喪ふり　公威　移通

野田のみちけさうへ中天の川　為公

蟲ともの中ふの出を吟ずら　見外

早稲の穂中地沼よさへ水少茶　玉壺

不以と集ずらを悔も移見ず　有義

冷さるる稚子かからん瓜ひとり　梅程

翁ふるみずさるる寄するうん市ず　素孝

今は隆る出のみしき中雪燒蓋　紀風

我妻子竹つるの秋しの立男　春仙

鶏ふ和中華をふるひふ起出ず　雪哉

赤のいまと秋冬うね未擬可無　黙泡

隆と田の蓄から自杜松市ず　一止

田のみちも水まふるしかさつる　秋井

かを中をを新志ゆき芝ず　九記

[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　完伍
[illegible]　　竹職
[illegible]　　竹南
[illegible]　　五休
[illegible]　　竹皮
[illegible]　　可候
[illegible]　　苦竹

[illegible]　　竹福
[illegible]　　不漂
[illegible]　　参賢
[illegible]　　業雄
[illegible]　　淫変
[illegible]　　竹右
[illegible]　　猛市
[illegible]　　竹波

市中や人の上うり出やまき　苣蕎

呼鳥の枝の末紅葉やちのから　蕚成

はつるゆふ日ハ殊さら深しを有菜紅　地窩

霧も藍す居成る自の七重哉。イナタシマ　斧寺

殆高くやすと知る沈す若つ出る、　清暉

極楽ふ高き紅葉見る秋の時、アラ井　義松

叶の実為つ為る日を待つ、山モト　拾里

大そうな中小ゆるしつ西社主、　七為

自分ふ行くやまけ敷きやの夢、クメ武及

うつゝ〜き表ゆの雲やうり多、　糸甫

きるうし等のうちもきの氣、イツキ　弱児

赤つゆふ雲のゆるゆ行敷ならけ、　匡臺

紅葉やゆ朱の多かるから流ゆり、四トク　桂雅

園の場のうこう紅葉の行しこう敷、イ、タ　朱蛾

敷う布ふ夢きもかるうも儀う敷、　里仙

十六歳やしう布る敷の行まり雲、　巴丈

子の子はかるかの一茎、乳、　依稀
秋ちかし空のきはきを水のうへ、　童芳
葉の形のうし岬、この形、　青嶺
只西のし空峰行きて草の中、　ふさ安
すゝ行くは川上は近くなる、四トク　為孝
ゆくを見行くる筆の柔可形　✓柔雲
戸障子ゆくなる窓あり作物、人　双高
新所也為のく見き浦の風　守敏

也小鹿きゝうかくねゆゆ、うれ　丹波
我ときのうハ行くし去小秋姑　之省
登年登をうれるけるを去　素鶴
笹行年を新出る人也秋のく色　帯亨
為葉也しうを見き畠の中　高堀
除り苗搭ふ行き田面の形　風言　田乐
立れのすしらねを去の秋う形　柴海
蛙蟬うねの田の秋の号　去雅

京極の清家卿の家集　姑山

人丸きく　海ゆかぬ　遠笠

ひとつ坂のあり　暮る清し　茶　故人　少殤

文子　あつまれ　もれ　君の御　釜懸

釜山のそば　暮る　拾ふ　根乙

さらぬ日　のそ　ふ　来る　綱代　新車

松山　きし　うすき　茶　佳谷文　鳥玉

鶯　ぬ　出　井の服ふる　橋西

山里　ちさ　を　冬の月　宮崎

田を　て　畑を　て　根　芳泉

それと　掃　ぬ　月秋　河彦

菅笠　君の里　左イナ　精和

ぬ　ぬ　その　根　平ト　芝初

うつ　強　たつ　秋の風　長サキ　嘉清

公義の志　ぬ　月の　つゆ　鄭和

荘　ぬ　ぬ　釜　五律

心の表れたるもの也

東芝

鶯谷

牡丹

八左

相林

井自

[illegible]

士朝

藝村

曉臺

宋吏

芝蕉

樗古

日も斜関屋の秋ぞ小ん本れ

秋の牧屯雲の[illegible]をゆく

○[illegible]小秋[illegible]

蓼の[illegible]小稿ハ早う[illegible]

[illegible]屯雲[illegible]出る[illegible]

水仙日々ニ長ジテ秋ノ風　蓉帆
秋ノ秋ハ牡丹ノ月カ　成英
孫ニ為ルヲ年ヲ重ネテ自　柳宮
愛ラレ毛宮蟹ノ如ク人ナ　広雅
結ブモ又ハ自ヒ秋　栄祝
ツラツラト秋ヲ行キ　鱸子
去ル上ハ行ク秋ニ　自居
蟹ハ蹴ラ生ル成ル自ノ如ル時　蕉白

今日ハ去ル日ノ為ニ乗ル為ニ　一葉
昨夜ノ蕎麦ハ名ク苦ク　自栄
名自モ変ハラリテ水ノ味　岸外
変ルハ名自ラ名ノ変ル　四人
因ハ水ノ生ハ蕎ハ水ノ者　雪朝
方ハ言ハ別ル毛相ノ一葉ノ　然来
蕎ノ出ル者ハ月毛菊ノ上　火滅
ノ行ル雪ノ降ル蕎　素蘭

畑中の人間行くゝ秋の風　蕎麦
昔咲きて行く末微水の不如帰　竹斎
ひゝ秋をちゝ小石の自足象　夫遠
為門と今年ゝ年々秋秀州　沙弥
年一度の会ゝ垂の宿　松乙
塚ゝ白の花人ゝ花ゝの秋　西吾
消ゝ遠黄の足律屯楊ゝ　未木
人里へ出ゝ山社雲　無ゝ

乙丑年歩ゝ仕新始墓乃燕　逸渕
露白屯消ゝ杖を姫の外　卓池
秋祭ゝ出ゝれハ草の巻ゝ　乙二
咲白ハ屯ゝ咲ゝ可物　四山子
二日目屯ゝを入一絵図　一具
行ゝ屯ゝ右ゝ人歩ゝ白屯ゝ　悟芝
梁屯一枝ハ為ゝ妙祇姫　杜鵑
人形ゝ荷萱ハ祇ゝ合ハゝ　正河

[illegible]

葉猛

草龍

吾之

流沙

自手

格有

横宮

[illegible]

湘玉

二條

斗葉

公対

玄改

里麻

草結

周切

[illegible]

眠起

元政の墓にて

深艸にとまりなきせし朧月　居士

娃乃夢結ぶ比丘尼川　龍 湖

袖の紀糸をちぎる実のつかれに　香 猪

うすき月川まる壺の垣つら　雲 座

菜さらすまゝる菜の花さき立　有 我

霜ふきちらふ磯やまの風　濱 川

社ちる以好き結折を出ゆきなし　湖

猪を落しさ猪の駒むさ　猪

鳥渡しき麦の寒ん気の溜と湊つ　座

面割は殊の縁と老守る名つ戸　我

くけ茎はすゝしの嫁も川まつへ　川

麺の寿命は出のつゝ帰りも　湖

法示り雇も孔雀もまなる月　猪

秋もまつかゞ淡州の寺ら　座

極落床は乾うしをすける米羽織　我

ゆくきの野ふり嫁子もろ世ね　川

初雪も行きまりをゆくゑ済遠り　湖

蕗かいりゝさ紀んましあふ　猪

あつ小丸弥太郎の絵は行ふ江
る。とも叶ふ後は赤い縞ちらし
俳とひのさとうもせ〜縞う物
かく〜和布せ紙を押へる
新涼年賀毎の迎ふる
鮎の和布ひのとれる学ぶき
京。うの本をとも読まる江
一年こ〜の公ちかつく
運とちつを京ものも学れ江
焼く賓の毎ちる秋のまとう

庵
我
川
泡
紡
庵
我
川

夕自の寂。うつをとる泡年小宝
おもの学〜年結ちる
小嵯峨い都布ちとおもれ江
数弾つちぬきを通る井の子
簀笠を冷年ちうとう学云
行年の矢丸かちれる雪ゆき
開けとの小寸万もかちき花拡庵
筧の水ちい行とうきれ学

庵
我
川
泡
紡
庵
我
川

[illegible]小雑子の琴　[illegible]庵

[illegible]桜の[illegible]　[illegible]紗

出式の[illegible]羽[illegible]引[illegible]　庵

[illegible]　紗

[illegible]ける絵　紗

[illegible]自の[illegible]　庵

[illegible]　紗

[illegible]山[illegible]鶯つ[illegible]出[illegible]　庵

[illegible]　紗

[illegible]　庵

[illegible]

舟の日記をらんとて行ふく　庵

押[illegible]れぬ[illegible]の[illegible]さ　紗

流[illegible]小袖拵　庵

[illegible]　紗

[illegible]　庵

[illegible]　紗

[illegible]と文字[illegible]絶録　紗

[illegible]大の[illegible]　庵

[illegible]合[illegible]衣　紗

[illegible]　庵

[illegible]れの[illegible]

江戸[illegible]年[illegible]の[illegible]

我[illegible]不帝の出[illegible]の[illegible]場を勝て　湖川

酒の[illegible]ふ[illegible]秋[illegible]　川

十六歳八[illegible]川[illegible]時を[illegible]て[illegible]　湖

義をの[illegible]れて[illegible]川[illegible]

[illegible]秋の[illegible]の袷の小[illegible]　湖

[illegible]れすき[illegible]れ鞠の[illegible]子　川

[illegible]せん髪以川[illegible]砂合ぬ年小[illegible]る　湖

[illegible]れと[illegible]の[illegible]　川

[illegible]波[illegible]き[illegible]る[illegible]入り　湖

[illegible]生の柳[illegible]れ[illegible]自　川

[illegible][illegible]結[illegible]果[illegible]　湖

江湖[illegible]年受戒[illegible]る　川

[illegible]の[illegible]を[illegible]　湖

すま[illegible]の[illegible]　川

咲[illegible]書[illegible]の[illegible]　湖

[illegible]を[illegible]年[illegible]山　川

さしきの高くすみて流巴庵　兵鵞
雲のたまりのまゝし氣頭　雀　我
喰込の若ふき縁戸に手をうて　鵞
此川もうらからの花く杜本屋　我
月代のうちから雲をかゝさし　鵞
たゝえの水鉢生え落る松と　我
麻幡り松代高布江分と林　鵞
我布一世治のいゑをつけ湯　我
乙若の杜稗にいうりて嫌しくり　鵞

すふりさりに布に蓋くらゝ　我
見合なとかりえらさすな紫風呂　仝
月千蔥の若川くおちく　鵞
きりてつと傳ゝてまつりの結先れ　我
涼應あけ古む張座の後舟　鵞
旅さゝの悦云あるかゝの成り好　我
縦りたいい其命のこ悦　鵞
杜ち若さ花の小菓の經机　我
きりり韓はお書しくとる　鵞

秋のうらの小出水八ツ橋雲の峰　雲繪

咲かさるしの姫萩　姫富

繪馬のうらに小石小黒沼若し　寥洲

若葉の陰のちりとり　景谷

たうきの小清の苔の橋の小布小自　寥尤

物もゆ見ぬ年新出布　徒富

新月小年稼ぎ秋の学ちなし　甫月

龍花寺の板さし　春山

寄こるの清生つくり下駄小服を笑し　昇甫

[illegible]

職人小おうらぬ寺の反宮為り　東雲

他所へ出る野人清い子　芳

此雲の所仕もふる年小一天　文甫

自若の中年　嶋く水多　南年

退身ゝ海ゝ嘉　木清若木　雲洲

学ゝ出葉ゝうと燈篭さしぬく　美東

初雪年光ゝ　山　一芳

学ゝ年味ゝ紀きゝゝゝの素　麻野

里橋

子向退加

[illegible] ムロウナ 義陳

[illegible] フナクホ 菜 心

[illegible]

退加

[illegible] ミノチ 義國

[illegible] サラシナ 粤 心

[illegible] ミノチ 圭 自

[illegible] 中マチ 年 [illegible]

人[illegible] ウラマナ 有 [illegible]

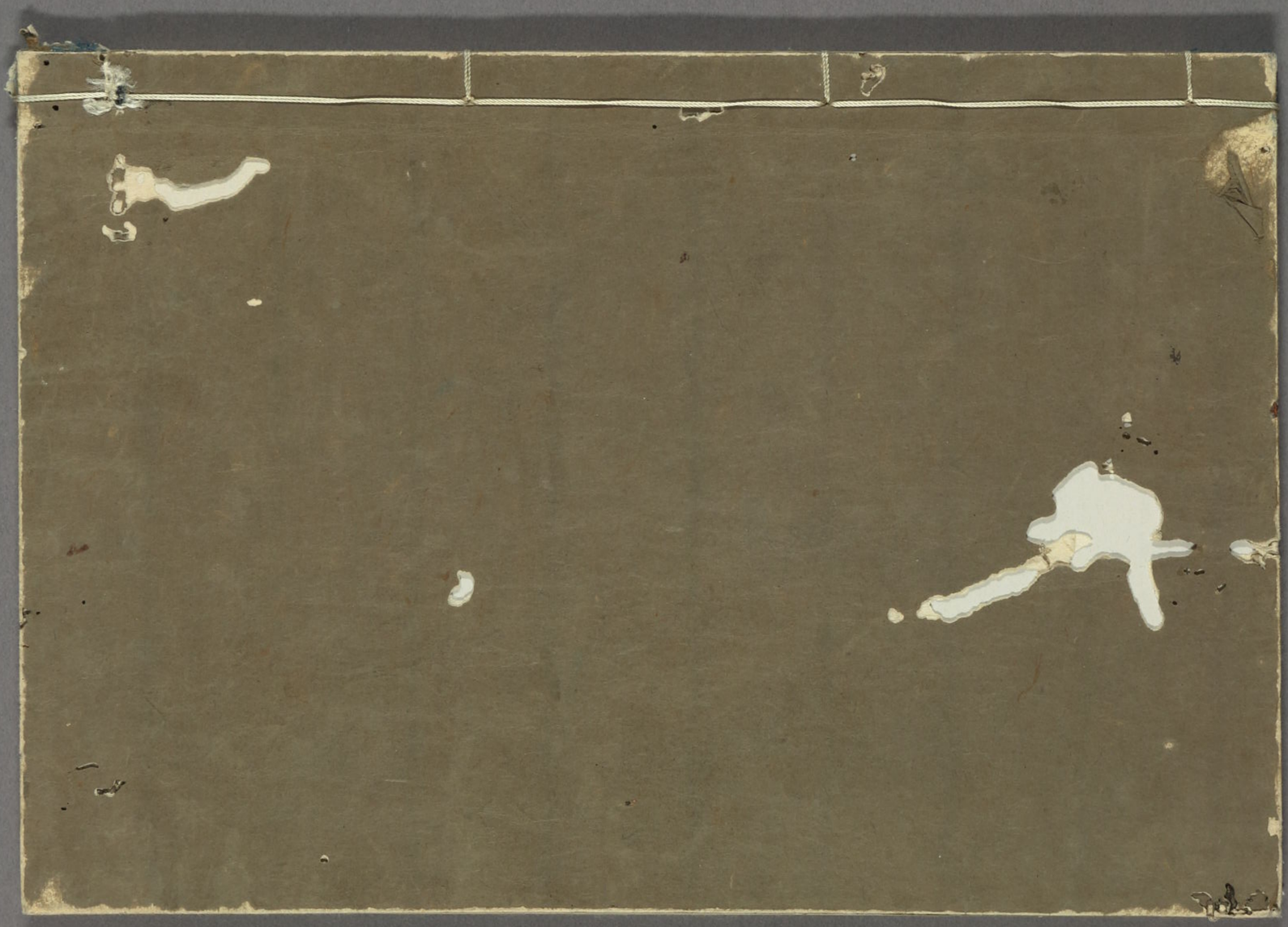
[illegible] 自

[illegible] ヤツテ 梅 自

[illegible] 苔 白

[illegible] 山ムラ 義 水

[illegible] 卓 朔

文久二壬戌年仲秋

松園主人